

# 教育実習Ⅰ（小）の報告

広島文教女子大学人間科学部

初等教育学科 准教授 佐伯 育郎

## 1 はじめに

本実習（教育実習Ⅱ・Ⅲ）に臨むにあたり、実習生としての確かな心構えと教育実践力を養うことを目標とする。前年度に終えた観察実習（教育実習Ⅶ）の体験、各教科教育法の学びをふりかえり、教材研究や学習指導案作成の仕方などをより深く学習する中で、事前に取り組むべきことを明確にする。小グループに分かれてからは、教材研究・教材開発、模擬授業に取り組む。空きコマなどを活用して、模擬授業に関する担当教員との打ち合わせを行い、指導を受ける。本実習終了後は、グループのリーダーによる実行委員会を中心に教育実習報告会を企画・運営・実施し、学修のまとめとする。

## 2 実施のスケジュール

項目	時期	主な内容
事前ガイダンス、全体会Ⅰ・Ⅱ	2月～4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2年次後期の2月初旬に事前ガイダンスを行い、教育実習Ⅰの趣旨・スケジュールや春期休業中の課題などを確認し、グループメンバーおよびグループ毎の目標を決定する。</li> <li>・担当教員からのアドバイス（教材研究のポイント、教科書・指導書などの資料の活用法、指導案の提出・添削の方法など）、春期休業中の課題の提出、第1クール担当教員と模擬授業の打ち合わせなどを行う。</li> <li>・担当教師による示範授業と協議会を体験するとともに、今後の取組についての打ち合わせをグループ毎に行う。</li> <li>・ループリック（授業評価票）を配付し、評価規準（基準）、評価方法について担当教員から説明する。</li> </ul>
グループ別模擬授業	4月～7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ毎に模擬授業に取り組む。</li> <li>・教材研究・題材開発に取り組み、学習指導案を作成する。担当教員と模擬授業に関する事前打ち合わせを行う。模擬授業をするにあたり、事前に模擬授業の練習を自主的に行う。</li> <li>・グループのリーダーを中心に実習報告会実行委員会を組織し、4年生（前年度実行委員）との「教育実習報告会」引き継ぎ会を行う。</li> </ul>
全体研究授業Ⅰ・Ⅱ、全体会Ⅲ、事後学修	7月～9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・代表者による模擬授業（模擬授業45分・研究協議会、代表者4人、2会場、2回）を行う。</li> <li>・教師による激励、教育実習Ⅰのふりかえり、課題（学習指導案のデータ・プリント、自己評価シートなど）の提出をする。</li> <li>・夏期休業中、グループ別で模擬授業に自主的に取り組み、後期の教育実習Ⅱ・Ⅲに備える。</li> </ul>

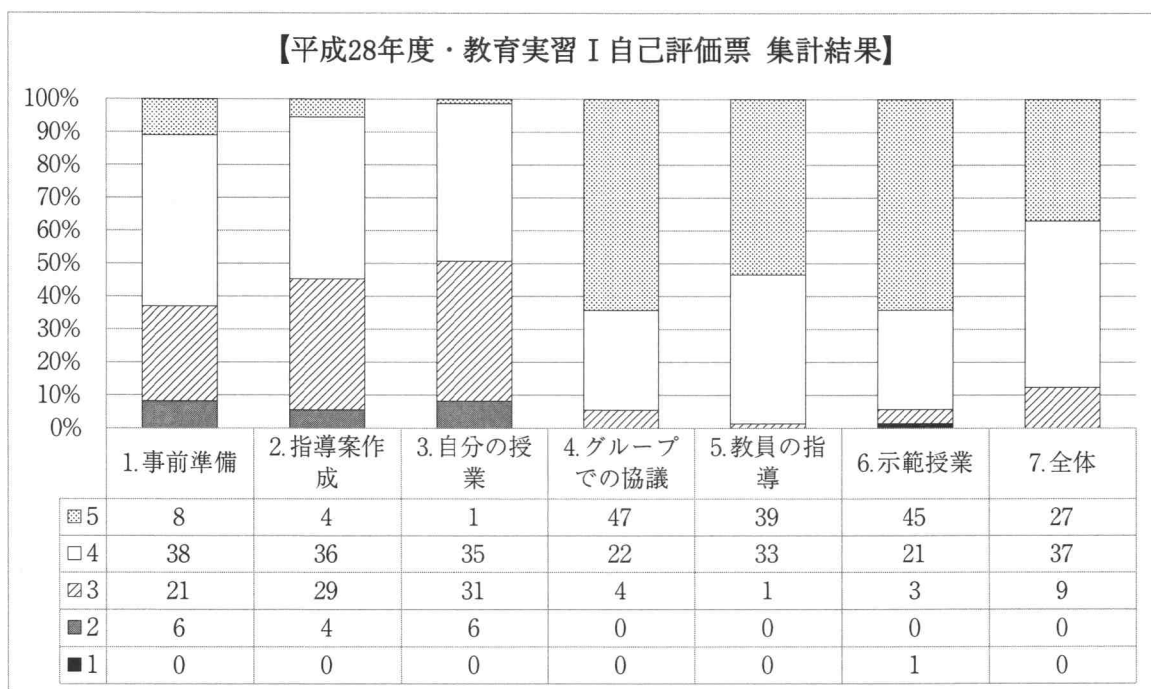
### 3 活動の概要

(1) グループおよび担当授業科目（受講者73人）

グループ（人数）	第1クール（3回）	第2クール（3回）	第3クール（2回）	第4クール（2回）
Aグループ（9人）	国 語	音 楽	理 科	体 育
Bグループ（9人）	音 楽	国 語	体 育	理 科
Cグループ（8人）	理 科	体 育	国 語	音 楽
Dグループ（8人）	体 育	理 科	音 楽	国 語
Eグループ（10人）	社 会	図 工	算 数	道 徳
Fグループ（10人）	図 工	社 会	道 徳	算 数
Gグループ（9人）	算 数	道 徳	社 会	図 工
Hグループ（10人）	道 徳	算 数	図 工	社 会

(2) 教育実習Ⅰ：全体振り返りシート（自己評価票）の集計結果（回答者73人，6は未回答3人）

最終講において自己評価票（A4サイズ1枚の質問紙）による調査を行った。1. 模擬授業の事前準備・教材研究等の取組，2. 学習指導案の作成，3. 自分の授業，4. グループでの協議，5. 担当教員の指導，6. 教員による示範授業，7. 全体を振り返っての7観点についての満足度を5段階（5が最高，1が最低）で学生に評価させた。結果はグラフの通りである。



### 4 成果と課題

一昨年度から導入したルーブリックを部分修正し，担当教員による学生の評価，学生による自己評価，学生間の相互評価に活用した。学生に対する最終的な評価・評定は，ルーブリックの結果そのままではなく，評定の境界に位置する学生については，教員による微調整を加えることによって修正し

た。担当教員による協議の上、学生の取組状況を考慮して評定を最終的に決定した。

前期の中間地点にあたる第2クールⅢ（3年次前期・第8講）では、グループ別に振り返りを行った。今年度は、第3・4クルールの模擬授業に向けての指導を充実させるために中間地点振り返りシートを用意し、学生に記入させた。昨年度の課題を改善できたが、後半の指導にどの程度有益であったかは明らかになっていないので、今後も継続することで検討していきたい。

今年度の全体研究授業の代表者は、すべて立候補であった。立候補者が5名であったため、学生・教員による話し合いの末、4名に絞り込んだ。昨年度は2名が学生による立候補、2名が教員による推薦であり、選出が難航した。昨年度に比べると積極性の高い学生達であったとともに、中間地点振り返りシートにも代表者として模擬授業をしたいかどうかの希望を記入させたことも、立候補者増への後押しになったのではないかと推察する。

課題としては、全体会Ⅱ（3年次前期・第2講）で行った教員による示範授業が算数科と図画工作科であり、いずれもE～Hグループの教科であったことが挙げられる。学生が模擬授業の参考にする上では、A～Dグループから1教科、E～Hグループから1教科となるのが理想的であろう。次年度には改善したいと考える。